

# 技術者等及び現場代理人の適正配置について

令和6年12月2日以降適用

令和6年4月1日以降に発注する、または契約中の建設工事において、建設業法に基づく主任技術者又は監理技術者（以下「技術者等」という。）及び現場代理人の配置についての基準を次のとおりとします。

各建設業者におかれましては、当該基準を遵守の上適正な施工を行っていただきますようお願いいたします。

## 1. 監理技術者の専任制の緩和について

### (1) 監理技術者の専任制の緩和について

さくら市が発注する建設工事における監理技術者の専任制の緩和に関する取扱いを次のとおりとします。

なお、監理技術者の専任制を緩和した場合であっても「監理技術者制度運用マニュアルについて」（平成16年3月1日国総建第315号）を遵守してください。

#### ◇監理技術者の専任制の緩和要件

・次に該当する工事について監理技術者の兼務を認めます。ただし、一の監理技術者が管理することができる工事は、2件とします。

- ① さくら市が発注する工事であること。
- ② 「監理技術者の職務を補佐する者」を専任で配置すること。

・ただし、次の工事は兼務を認めません。

- ① 特記仕様書に兼任を認めない旨の記載がある工事

### (2) 監理技術者の職務を補佐する者（以下、監理技術者補佐）について

監理技術者補佐となるには下記①～②のいずれかの条件を満たす必要があります。（国土交通省告示第1057号）

#### ① 下記の表の建設工事に該当する一級の一次検定に合格している者

建設工事の種類	一級の一次検定のうち検定種目が下記のものに合格
土木一式工事、舗装工事	建設機械施工管理又は土木施工管理とするものに合格
建築一式工事、大工工事、左官工事 屋根工事、タイル・れんが・ブロック 工事、鉄筋工事、板金工事、ガラス 工事、防水工事、内装仕上工事、熱 絶縁工事、建具工事	建築施工管理とするものに合格
とび・土工・コンクリート工事	建設機械施工管理、土木施工管理又は建築施工管理とするものに合格
石工事、鋼構造物工事	土木施工管理又は建築施工管理とするものに合格

塗装工事、解体工事	
電気工事	電気工事施工管理とするものに合格
管工事	管工事施工管理とするものに合格
しゅんせつ工事、水道施設工事	土木工事施工管理とするものに合格
電気通信工事	電気通信工事施工管理とするものに合格
造園工事	造園施工管理とするものに合格

② 建設業法第15条第2号イ、ロ又はハに該当する者

2. 主任技術者の専任制の緩和について

(1) 主任（監理）技術者の配置について

建設業の許可を受けている者は、請け負った建設工事を施工する場合、主任技術者又は監理技術者を配置しなければなりません。（建設業法第26条）

(2) 主任（監理）技術者の専任について

公共性のある工作物に関する重要な建設工事（請負代金額4,000万円以上、建築一式工事については8,000万円以上）に配置する主任（監理）技術者は、特別な場合を除き原則として工事現場ごとに専任で配置しなければなりません。（建設業法第26条第3項、建設業法施行令第27条第1項）

(3) 主任技術者の専任制の緩和について

国土交通省からの通知（「建設工事の技術者の選任等に係る取扱いについて」平成26年2月3日国土建第272号）に基づき、さくら市が発注する建設工事における主任技術者の専任制の緩和に関する取扱いを次のとおりとします。

◇主任技術者の専任制の緩和要件

- ・ 当面の間、次に該当する工事について主任技術者の兼務を認めます。ただし、一の主任技術者が管理することができる工事は、2件とします。
  - ① さくら市が発注する工事であること。
  - ② 工作物に一体性若しくは連続性が認められる工事又は施工にあたり相互に調整を要する工事であること。
- ・ ただし、次の工事は兼務を認めません。
  - ① 監理技術者の配置を要すると見込まれる工事。  
（下請金額の合計が4,500万円（建築一式は7,000万円）以上）等
  - ② 低入札価格調査を経て契約締結した又は締結しようとする工事。
  - ③ 工事内容及び施工管理の難易度並びに工事現場の地理的状況等に鑑み、主任技術者の兼任を認めないと判断する工事。

(4) 専任を要する主任技術者を兼務する場合の手続きについて

- ① 契約時に提出する現場代理人等選任通知書に「主任技術者兼任届出書（別紙）」を添付し提出してください。
- ② 既発注工事の監督員に、兼任の主任技術者になったことを工事打合せ簿に「主任技術者兼任届出書（別紙）」を添付し報告してください。

3. 現場代理人の常駐義務の緩和について

(1) 現場代理人の配置について

さくら市が発注する工事においては、さくら市建設工事請負契約書第11条第1項により現場代理人の配置、第11条第3項により現場代理人の工事現場への常駐を義務付けています。

(2) 現場代理人の常駐義務の緩和について

今般、国土交通省からの通知（「現場代理人の常駐義務緩和に関する適切な運用について」平成23年11月14日国土建第161号）に基づき、さくら市が発注する建設工事における現場代理人の常駐義務緩和に関する取扱いを次のとおりとします。

(3) 常駐義務を緩和できる期間について

- ① 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
- ② 工事の全部の施工を一時中止している期間
- ③ 工場製作のみが行われている期間
- ④ 工事現場で作業が行われていない期間
- ⑤ 工事検査が終了し、事務手続きや後片付け等のみが残っている期間

(4) 現場代理人の兼務について

◇現場代理人の常駐義務緩和要件

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 兼務する・兼務される工事の金額が当初請負金額（税込）4,000万円未満の工事であること。</li><li>② さくら市が発注する工事であること。</li><li>③ 現場代理人が不在となる間、工事現場の取締り、工事の施工に関する事項を処理できる連絡員を指定し、連絡員が常駐すること。</li><li>④ 上記要件により兼務できる工事の件数は2件までとする。</li></ol> |
|--|

(5) 現場代理人を兼務する場合の手続きについて

- ① 契約時に提出する現場代理人等選任通知書に「現場代理人兼任届出書（別紙）※」を添付し提出してください。

※同様式にて対象工事の連絡員を併せて報告してください。

- ② 既発注工事の監督員に、兼任の現場代理人になったことを工事打合せ簿に「現場代理人兼任届出書（別紙）」を添付し報告してください。

（6）他の工事と兼務する場合の連絡体制の確保について

- ① 現場代理人は、一方の現場に偏ることなく適切に現場を管理しなければなりません。また、兼務する工事のいずれかの工事現場に常駐しなければなりません。
- ② 現場代理人は、監督員及び工事現場との連絡を確実に行うことができる体制を取らなければなりません。
- ③ 現場代理人が他の工事の兼務のため、不在になるときは、連絡員が当該現場に常駐しなければなりません。

（7）問題が生じた場合の措置について

常駐義務の緩和を認めた工事について、施工管理の不徹底に起因する事故の発生や住民対応等のトラブルの発生など、現場体制が不備と認められる場合は、緩和措置を取り消し、新たな現場代理人の配置を求めることがあります。

4. 技術者等（監理技術者、主任技術者）及び現場代理人の確認資料について

（1）直接的かつ恒常的な雇用関係を証するもの

技術者等（監理技術者、主任技術者）及び現場代理人について、所属する会社と直接的な雇用関係を証するため、次のいずれかの書類の写しを配置技術者の届け出と同時に提出し監督員の確認をうけてください。

なお、技術者等及び現場代理人は入札の申し込みのあった日以前に3か月以上の恒常的な雇用関係にあることが必要です。

ア 技術者等の恒常的な雇用関係を証する書類（イに該当する場合を除く。）

次のいずれかの書類を提出してください。

- ・ 監理技術者資格者証（表・裏）の写し
- ・ 雇用保険被保険者資格取得等確認通知書（事業主通知用）の写し
- ・ 健康保険被保険者証の写し（有効期間内のものに限る。令和7年12月1日まで可）

イ 工事受注会社が社会保険の適用除外である場合、または後期高齢者医療制度被保険者の場合

次のいずれかの書類を提出してください。

- ・ 住民税特別徴収税額（変更）通知書の写し
- ・ 源泉徴収簿の写し

(2) 配置技術者の資格を証明するもの

ア 監理技術者

- ・ 監理技術者資格者証（表・裏）の写し
- ・ 監理技術者講習終了証の写し

イ 主任技術者

次のいずれかの資料を提出してください。

- ・ 資格証明書等の写し（国家資格を有する技術者）
- ・ 経歴書（実務経験による技術者の場合）

5. さくら市発注工事における現場代理人、監理技術者又は主任技術者、営業所の専任技術者の配置・兼務一覧表

●配置・兼務可 ▲兼務不可（特例有り） ×配置・兼務不可

		専任を要しない工事(注1)			専任を要する工事(注2)			
		現場代理人	主任・監理技術者	営業所の専任技術者の配置	現場代理人	主任・監理技術者	営業所の専任技術者の配置	
同一工事	現場代理人		●	×		●	×	
	主任・監理技術者	●		● (注3)	●		×	
	営業所の専任技術者の配置	×	● (注3)		×	×		
別途工事	専任を要しない工事(注1)	現場代理人	▲ (注4)	×	×	×	×	
		主任・監理技術者	×	●	● (注3)	×	▲ (注5)	×
	専任を要する工事(注2)	現場代理人	×	×	×	×	×	×
		主任・監理技術者	×	▲ (注5)	×	×	▲ (注5)	×

注1 監理技術者又は主任技術者の専任を要しない工事とは、請負金額が4,000万円（建築一式工事は8,000万円）未満の工事

注2 監理技術者又は主任技術者の専任を要する工事とは、請負金額が4,000万円（建築一式工事は8,000万円）以上の工事

注3 営業所の専任技術者、経営業務の管理責任者を配置ができるのは主任技術者としてのみです。

注4 さくら市発注であり、当初請負金額（税込）4,000万円未満の工事については2件まで現場代理人を兼務することが可能です。

注5 監理技術者においては、「1. 監理技術者の専任制の緩和について」の緩和要件を満たした場合に2件まで兼務可能です。

主任技術者においては、「2. 主任技術者の専任制の緩和について」の緩和要件を満たした場合に2件まで兼務可能です。

※ 同一請負契約で常駐・専任が必要な現場代理人と主任技術者等を兼任した場合には、相互に調整が必要であったり、関連した工事など特別な場合を除き他工事の現場代理人及び技術者等を兼務することはできません。

## 6. その他

虚偽の申請があった場合や建設業法に違反した場合は、工事成績評価に反映させるとともに、契約解除や指名停止等の措置を行います。

各種法令等を遵守し、適正な技術者の配置に努めてください。

## 【参考】

### ○建設業法で必要とする技術者

#### 1. 営業所専任技術者

「営業所の専任技術者」とは建設業法第7条第2号及び第15条第2号の規定により、建設業の許可を受けようとする建設業ごとに、一定の要件を満たす技術者を営業所ごとに専任で置かなければならないとされている技術者のことです。

「営業所の専任技術者」は、請負契約の締結にあたり技術的なサポート（工法の検討、注文者への技術的な説明、見積等）を行うことがその職務となっていますので、所属営業所に常勤していることが原則となっています。

例外的に、対象工事の技術者としての職務に従事しながら実質的に営業所の職務にも従事する程度に工事場所と営業所が近接し、当該営業所との間で常時連絡をとりうる体制にある場合は現場の技術者となることもできますが、近隣工事であっても工事現場への専任を要する工事の技術者等（監理技術者及び主任技術者）及び現場に常駐を要する現場代理人にはなれません。

#### 2. 建設工事の工事現場に配置すべき技術者等（監理技術者、主任技術者）

請け負った建設工事を施工する工事現場には、当該工事について一定の資格を有する監理技術者又は主任技術者（以下「技術者等」という。）の配置が必要です。発注案件ごとに配置技術者の資格等の条件を付していますので、条件に合った技術者等を配置しなければなりません。

また、技術者等は受注者と直接かつ恒常的雇用関係にあることが必要で、在籍出向者、派遣社員、工事期間のみの短期社員等の配置は認められません。

特に技術者等の専任配置を必要とする工事（請負金額4,000万円以上（建築一式は8,000万円以上））の場合は、入札の申し込みのあった日以前に、3か月以上の直接かつ恒常的雇用関係にあることが必要です。

#### 【入札の申し込みのあった日】

条件付き一般競争入札 = 入札締切日

指名競争入札 = 入札の執行日

随意契約 = 見積書の提出日

#### 3. 技術者等の専任配置を必要とする工事（専任対象工事）

専任とは、他の工事現場に係る職務を兼務せず、常時継続的に当該工事現場に係る職務のみに従事していることをいいます。

##### ① 工事の請負金額

請負金額が4,000万円以上（建築一式は8,000万円以上）

なお、入札公告で専任配置を求めた工事については請負金額にかかわらず専任配置が必要です。

受注時請負金額4,000万円未満の建設工事に変更契約により変更後の請

負金額4,000万円以上となった場合、変更契約日から専任配置が必要となりますのでご注意ください。

② 監理技術者を専任配置しなければならない工事

さくら市では、工事種別を問わず、「下請け金額が4,500万円以上（建築一式工事の場合は7,000万円以上）となりうる工事」については、公告段階で監理技術者の配置を求めています。

ただし、特記仕様書で兼任を認めない旨の記載がない場合は、監理技術者補佐を専任配置することによって2件まで兼任可能となります。

③ 技術者等の配置条件

ア 別工事の技術者等として配置されてはいけません。

ただし、附帯工事や合併発注工事の場合は別契約でも兼務することができます。

イ 配置する技術者等は、同工事の現場代理人を兼任することはできませんが、別工事の現場代理人になることはできません。

ただし、請負金額が4,000万円未満の場合は、現場代理人も兼任（いずれかの現場で常駐）することができます。

ウ 配置する技術者等及び現場代理人は、営業所の専任技術者であってはいけません。

ただし、専任を要しない主任技術者になることはできます。

●配置技術者等及び現場代理人専任等の基準一覧表

請 負 金 額	監理技術者	主任技術者	現場代理人	営業所の専任技術者※1
4,000万円以上 (建築8,000万円以上)	専任※2	専任	常駐・専任	配置できない
建築4,000万円以上 8,000万円未満	兼任可	兼任可	常駐・専任	配置可能(兼任可) (主任技術者としてののみ)
4,000万円未満	兼任可	兼任可	兼任可	配置可能(兼任可) (主任技術者としてののみ)

※1 営業所の専任技術者及び経營業務の管理責任者は、専任を要する主任技術者又は監理技術者及び現場代理人になることができませんのでご注意ください。

※2 監理技術者補佐を専任配置する場合には2件まで兼任可。ただし特記仕様書で兼任を認めない工事の場合は専任配置となります。